

第4回目講座「地図の読み方」実技記録

第20期 坂田美由紀記

コースタイム：軍畑駅出発 9:35

ここから班行動、榎本運営委員と受講生4名 コンパスで入口を確認する。

- ① 平溝橋分岐 9:50～9:53 この後川をまたぐ。
- ② 高源寺登山道入口 10:08～10:12 お参りする人あり。
水分補給ここからが登山！という講師の声を聞きながら緊張して出発。
- ③ 沢からの登り 10:33～10:36 途中に堰があった。
- ④ 尾根に乗る 10:49～11:00
- ★山頂手前のあずまやで昼食をとる。11:28～12:07 雨が落ちてきてかっぱを着る。
- ⑤ 高水山頂 12:11～12:17
- ⑥ 高水山から2個のコル 12:28～12:29
- ⑦ 巻き道との分岐 12:37～12:40
- ⑧ 岩茸石山頂 12:49～12:52
- ⑨ 馬仏山 723m ピーク 13:21～13:25
道に迷い、ポイントが見つからず時間がかかった。雨もやみ、かっぱを脱ぐ。
- ⑩ 惣岳山頂 13:48～13:55
- ⑪ ヘアピンカーブ 14:20～14:21
地図で送電線を三回くぐることを確認して進んだ。
- ⑫ 沢井駅方面への分岐 14:38 ここで雨が降りかっぱを着る。
- ⑬ 沢井駅 15:10
一時間ほど待ち、全員そろったところで、講師挨拶。班ごとに一日の反省をし、解散。16:23 発の電車に乗り帰路につく。



★ 地図の見方、コンパスの使い方は、大分わかるようになりました。

第4回目講座「地図の読み方」を受講して

第20期 若林 信彦記

一日目 机上講座

今回は私が一番勉強したかった「地図読み」講座です。本命登場に前日の夜は左手に事前案内、右手にビールを持ち自分自身でモチベーションをアップさせてました。

今回地図の読み方だけと思っていましたが、講義を始めると、山岳遭難の話が始まりました。過去の遭難者数を見ると道迷い41.6%が圧倒的に多く、その原因の中で人為的ミスが事前準備不足・判断の誤りにより、その結果が遭難！怖い怖いと思いつつも明日は我が身と考えるとしっ



かり勉強しなくては。

今まで地図は案内看板とかネットの簡易的な地図を見ながら登っていましたが、コンパスと国土地理院地図を見ながら実際に目標地を目指しながらの登山は初めて、そして地図の記号は小学生の社会科で見た遠い記憶が・・・一番苦戦したのは尾根と沢の見分け方でした。全然理解ができませんでしたが、講師のアドバイスが上手いのか理解ができ、見えるようになり頭の中で立体的なイメージも湧きとても楽しかったです。

2日目 実地学習

9キロ超えの山行で楽しめそうと思いながら電車で揺られながら高水三山に向かいました。

まずはコンパスを地図で目的地に合わせて方向確認！そして班のみんなで方向があっているかの答えあわせをしました。昨日の机上学習でコンパスの使い方の勉強をした成果で班全員しっかりとコンパスの使い方を習得しておりみんな優秀でした。

今回の山行で一番勉強になった事！それは魔の9番ポイントでした。

道迷いをしました

初めての経験でしたが、みんな冷静でした。地図を見ながら、気を付けながら山行しても目印は見落とすんですね。

道迷った時は、自分を信じるより自分を疑い、来た道に戻る勇気が必要だなと実感しました。その後は無事に何事もなく終わりましたが、登山学校に入る前に知識もなく同じ状況になっていたら、本格的な遭難に発展してしまう可能性もありましたね。

まだまだ、知識も経験も少なく判断が甘いところもあるので、自分の身を守る為にも必須な講座ではなかったでしょうか。



第4回目講座「地図の読み方」を受講して

第20期 佐藤真理子記

9月5日、地図読みの机上講座。もともと地理が苦手だったし、今まで山の会でも先輩から地図の見方を教えてもらっていても、用語からチンプンカンプンで、全く頭に入ってきませんでしたが、今回の講座で地図の奥深さに感動しました。地図記号も「子供のころに見たことがある」と懐かしくなり、もう少しまじめに勉強しておけばよかったなと反省しました。

今回「山と高原地図」と「2万5千分の1地図」の役割の違いを感じ、両方それぞれに大切で、特に全く理解できなかった「2万5千分の1」地図の等高線により地形が見えてくるということには本当に感動しました。



9月6日9時15分 軍畑駅集合。3班は朝から波乱万丈でした。まじめなキャラのIさんが電車を乗り間違えて遅れてしまうと連絡があり、自分のことのようにハラハラしていましたが、なんと青梅からタクシーで来たと、集合時間に間に合いました。山にかける情熱、まじめな性格、素晴らしい！

いざ高水三山に出発。ぐずついた天気不安を感じながら、昨日の地図読みの地図記号や地形を復習しながら、地形と重ねて地図を見ると、なんて楽しいのだろうと思いました。

まだまだ分からないけれど、大の苦手ではなく、勉強してみたいなという気持ちになれました。駒崎先生から山菜やお花の名前を教えていただいたり、むかごを食べてごらんと手渡されたり、自然を満喫です。駒崎先生も昔ままごとで使ったとか・・・？意外な一面をお聞きし、幼少時代を想像してしまいました。

高源寺からの登坂はグイグイ行っていると実感できるほどで、山頂に近づくにつれ達成感を感じることができました。常福院のあずまやで休憩した頃にカッパを着ようか迷うくらいの雨が降り始め、着たり脱いだりしました。下山までずっとそんな調子でしたが、林を抜けた途端大振りだったので、木々が雨を防いでくれたのだと驚きました。

コースは川沿いあり、急勾配あり、岩あり、急な下り坂ありで、見事にいろいろな地形が凝縮され、地図読みの勉強のコースに選んだことが納得できました。雨の中だったので滑るのではないかと変な力がかかりましたが、無事下山することができました。

途中自分が先頭の時に馬仏山への分岐点を見逃してしまい、まき道してしまったことが残念で、3班の他のメンバーたちが物足りなかったのではなかったかと申し訳なく思っています。また機会があったら、ぜひ完全制覇したいと思います。

今回の登山で、また一段と山の楽しさを実感しました。ありがとうございました。



2015. 9. 27 伊藤 聡

1. 「机上講座」①日時：9月5日（土）午前9時半～午後3時半②場所：北浦和カルタスホール
③講師：八木原運営委員 ④講座内容「山岳遭難の概況」「様態別遭難者数*1」「道迷いの原因*2」
「遭難事例1、2」「道迷いの対策*3」「地図読みの基礎」「地図の種類」「地形図の周囲に記されていること」「山の地形の特徴」「地図の記号」「地図読みの基礎」「等高線と地形」「磁北線の引き方*4」「ベースプレートコンパス」「ベースプレートコンパスの使い方*5」「地図の折りたたみ方*6」「概念図とは」

①年代別では、60代がトップで26.6%。単独行は複数人パーティーの3倍の発生率 ②濃霧で赤テープを信じ込んで誤ったルートへ迷い込む □ 山行計画書の作成、沢へ下りずに尾根を登る。
④山行前に地図に磁北線（縦30cmに対し、3.69cm左に傾いた線）を、ものさしの幅で何本も引いておく。⑤コンパスのベースプレートに、25000分の1の地図用のスケールがあり、地図上の距離を測ることができる。⑥地図の余白を裏側に折り、隣接する地図と合わせやすくする。

⑤講義中の実習内容

1)明日登る高水三山の地図を使い、尾根と谷の位置関係の検証を行う。

2)等高線をなぞり、山の形を立体的に見る訓練をした。3)コンパスの使い方の復習を行った。

4)軍畑駅から沢井駅までの登山道をトレーシングペーパーに写し取り、概念図の作成を行う。

5)次回（10月3日、4日）講座「岩登り（初級）」の案内 6)感想

60代と単独行の遭難発生率が高いことがわかり、少なくとも2人以上の複数での行動が必要と感じた。また、今までは地図があっても登山道だけをみていたが、等高線をよく見れば、コル等の情報がいろいろ読み取ることができるとわかった。コンパスの使い方の復習ができ、今後は間違わないで使えるようになった。

2. 「地図の読み方講座・実技」9月6日（日）奥多摩・高水三山 曇りのち雨

2班編成（担当運営委員：小松氏、磯野氏）班長：吉田氏、副班長：梅田氏、記録：伊藤、遠藤氏、工藤氏、植村氏の計6名。2)コースタイム 軍畑（9:35）→①平溝橋分岐（9:50）→②高源寺 登山道入り口（10:30）→③沢からの登り（10:45）→④尾根に乗る（11:35）→⑤高水山頂（12:30）→⑥高水山から2個目のコル（12:45）→⑦巻道との分岐（12:55）→⑧岩茸石山頂（13:05）→⑨馬仏山頂（13:44）→⑩惣岳山頂（14:25）→⑪ヘアピンカーブ（14:55）→⑫沢井駅方面の分岐着（15:25）

3)実技概要、所感 今にも降り出しそうな天気の中、ストレッチ後、コンパスを振り方向を確認し次の平溝橋分岐までの登山道周りの様子（針葉樹林）を想定した後、9:35に出発。運営委員により事前に①平溝橋分岐から各地点の目印を設置されており、その目印、送電線、堰などを確認しながら進む。登山道入り口を過ぎて、登山道が沢と実際に交わる場所が、地図の記載と相違し、地図が少し古いことを八木原運営委員に教えていただく。地図が相違していることなど想定外だったので、地図は最新のものを用意すべきではあるが、こういう地図と実際の相違は想定しておく必要があることがよくわかった。雨が降り出していたこともあり、昼食後早めに高水山頂目指して出発。13:05 岩茸石山（793m）に到着。13:44に馬仏山（723m）に到着するも、登山道を外れていることを忘れていて、小松運営委員に注意されるまで、班員は誰も気づかず、道迷いの遭難寸前となる。いかなる時も地図を頭に入れておく必要があることを痛感した。惣岳山頂上（756m）に14時25分に到着。そのころには、一時止んだ雨が更に強く降り出し、下りの泥の登山道が滑るため、磯野運営委員のストックを借りて下った。足場が悪い時のストックの効果は抜群であることが、体験できた。今回の実技では、雨に初めて降られ、雨対策（地図を100均の透明袋に入れる、滑る登山道ではストックの準備等）の重要性を痛感した。以上